

15:32 イスラエルの子らが荒野にいたとき、安息日に薪を集めている男が見つかった。

15:33 薪を集めている者を見つけた人たちは、その人をモーセとアロンおよび全会衆のところに連れて来た。

15:34 しかし、その人をどうすべきか、はっきりと示されていなかったのので、彼を留置しておいた。

15:35 すると、【主】はモーセに言われた。「この者は必ず殺されなければならない。全会衆は宿営の外で、彼を石で打ち殺さなければならない。」

15:36 そこで、全会衆は【主】がモーセに命じられたように、その人を宿営の外に連れ出し、石で打ち殺した。

15:37 【主】はモーセに告げられた。

15:38 「イスラエルの子らに告げて、彼らが代々にわたり、衣服の裾の四隅に房を作り、その隅の房に青いひもを付けるように言え。

15:39 その房はあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、【主】のすべての命令を思い起こしてそれを行うためであり、淫らなことをする自分の心と目の欲にしたがって、さまよい歩くことのないようにするためである。

15:40 こうしてあなたがたが、わたしのすべての命令を思い起こして、これを行い、あなたがたの神に対して聖なる者となるためである。

15:41 わたしが、あなたがたの神、【主】であり、わたしがあなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出したのである。わたしはあなたがたの神、【主】で

ある。」

安息日を覚えてこれを聖なる日とすべきことは、出エジプトの頃から明白で、その罰も明言されています。それを破る者は民から絶たれるのであって、イスラエルの民もそれに同意しています。ですから主は「石で打ち殺」すことを命じられました。

かつて人間は、善悪を知る木（すなわち善悪を自分で判断すること）から食べて、神に背き、その結果呪いを受けることになりました。自分で判断するとは自己中心であり、その結果罪や争い、さらには戦争までもが引き起こされるようになったのです。

安息日を聖なるものとするとは、神の主権を認めて主に従うということです。それを破ることは、善悪を自分で判断することにつながり、呪いを受けることになります。この呪いを受けないために主の厳罰があったのです。

新約時代の今でも、安息日に礼拝を守らずに神の主権を侵すことは、基本姿勢が神中心ではなく、人間中心であることを表しています。

十字架の救いを知っていながら、安息日に礼拝を守らない人のたましいは、命の主と繋がることはできませんから、生きながらえているとしたら、それはただ神様の憐れみなのです。

安息日すなわち聖日の礼拝に関して、人間中心ではなく、神様中心に考えましょう。礼拝を第一にできるようなライフスタイルを勝ち取りましょう。どうしてもそれが叶わない状況なら、あらゆる手立てを講じて、主が第一であることを表わしましょう。

主は「青いひも」によって「命令を思い起こ」すようにと言っておられます。主の命令を忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

